

緑の遅い交通を デザインする

羽藤英二

hato0816@gmail.com





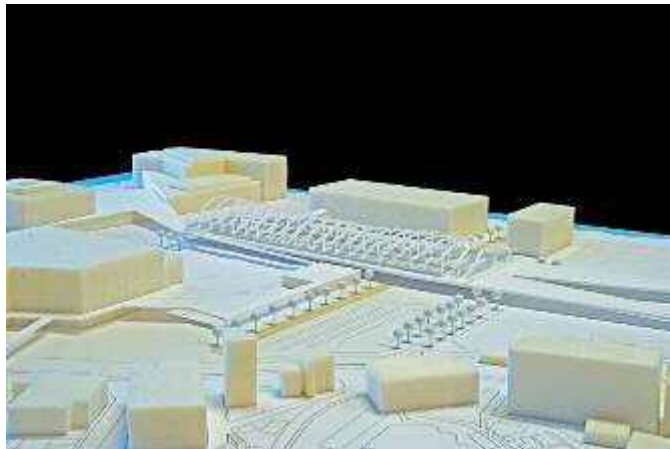
「人間」や「街」にとっての変わらない「定点」

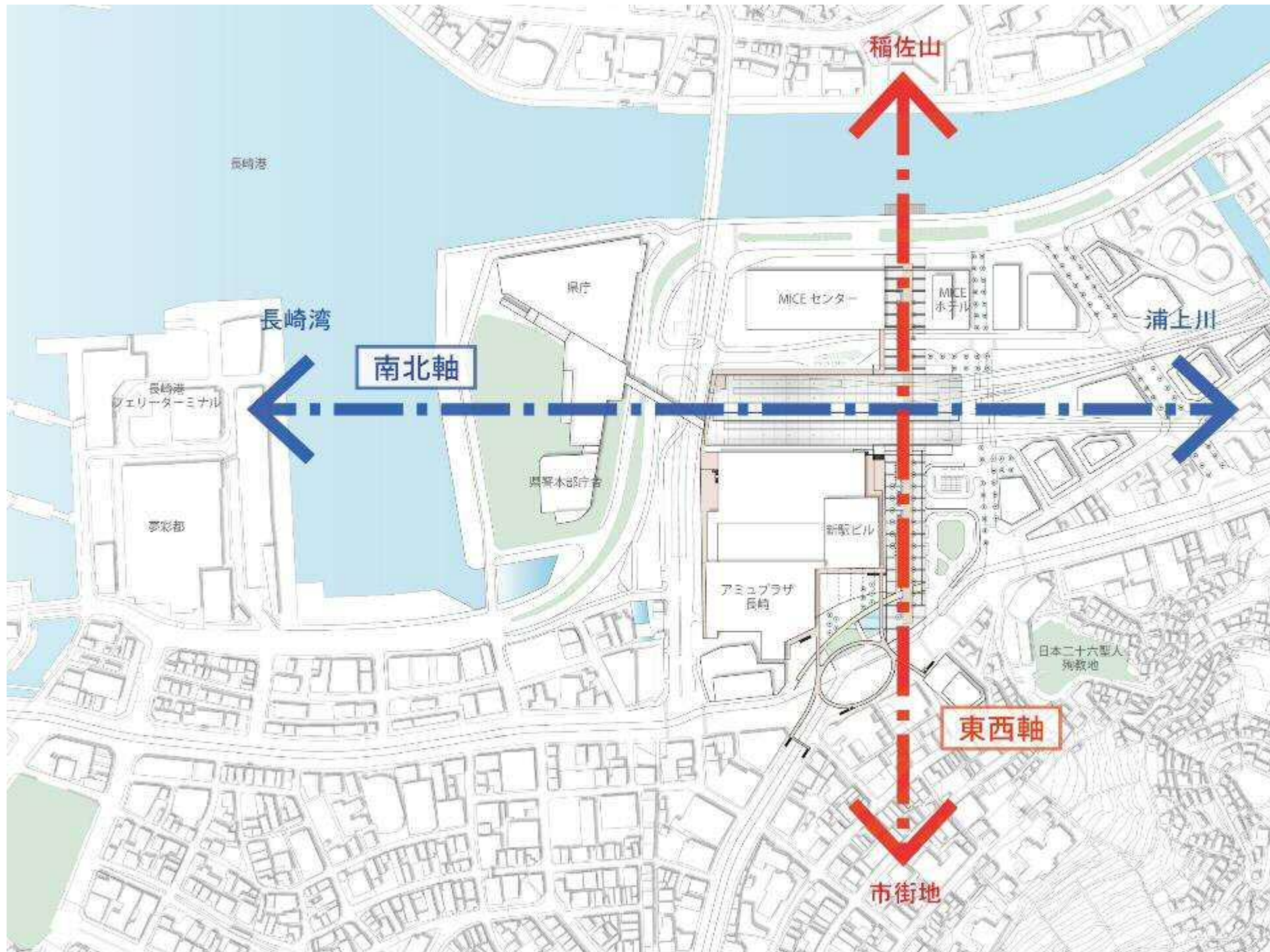


長崎が持つ「多くの資産」

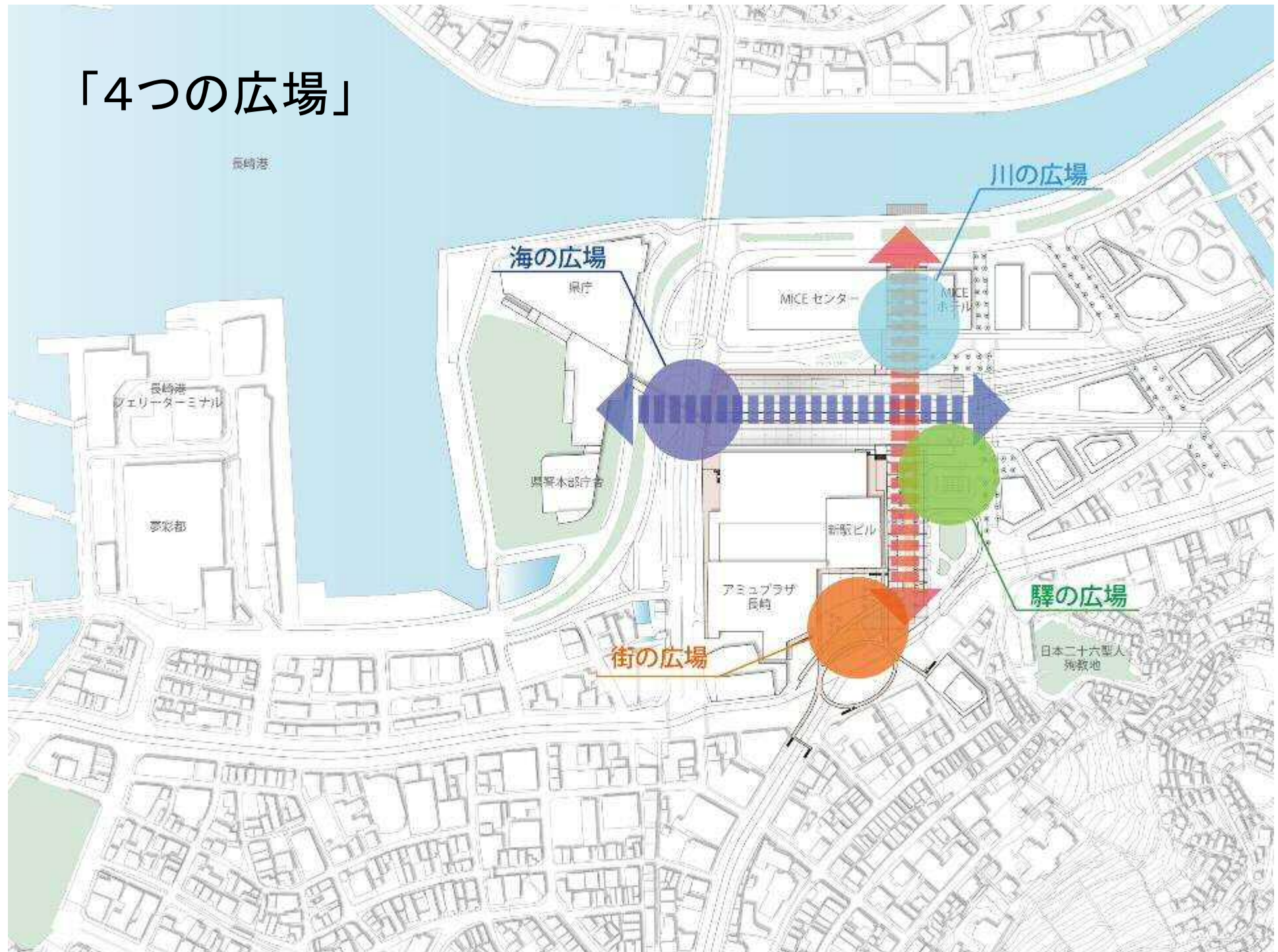
駅をつくる上で大切なこと

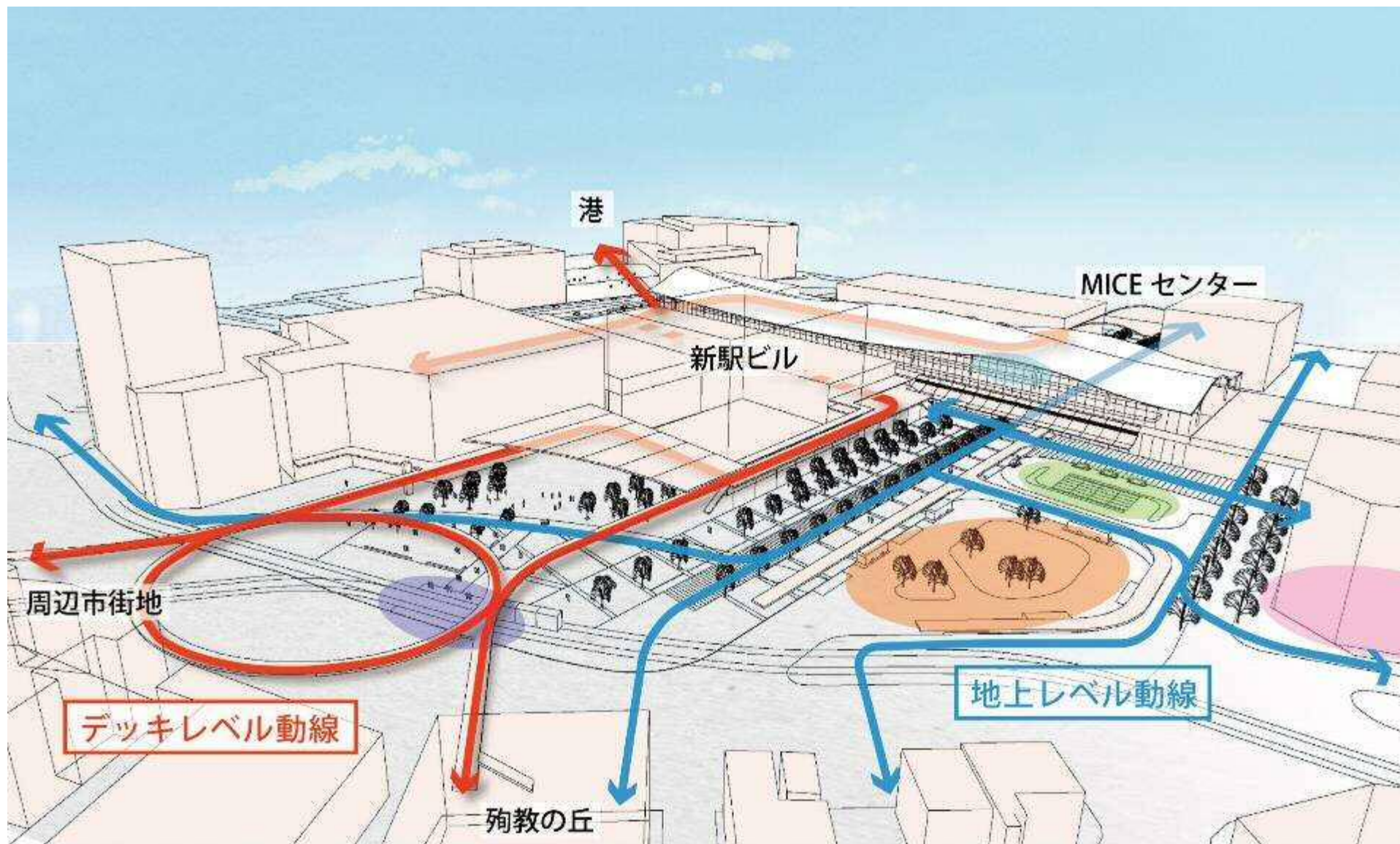
- ① そのまちらしいデザイン
- ② 賑わいと憩いの拠点
- ③ 駅と街と地形をつなぐ





「4つの広場」





歩きたくなる動線計画



極大化するネットの危機



まち

<



駅

<<



ネット

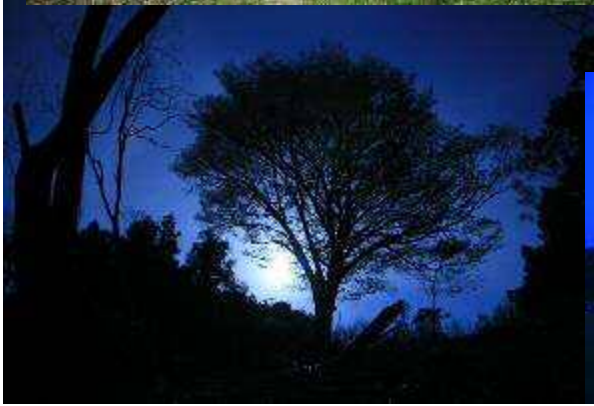
人はなぜ移動するのか？

カルビン回路

とりあえず歩いてみた. 200kmくらい







観光の型を考える上での見方(1)

- 柳田国男によれば「旅行の進歩および退歩」を1927年に講演したおり、タビという日本語はタマハルと語源が同じで、ヒトの給付をあてにして歩く点が物貰いなどとひとつであったのではないかと思われる。
- 英語のジャーニーはその日暮らしということであり、トラベルはフランスの労苦と同じ意味である。旅はそのようにつらいものであるのだ。かつては辛抱であり努力であった。そうまでして挑むのであるから大いなる動機や決意がなくてはいけない。
- 昔にさかのぼるほど、旅の目的は限定されている。楽しみのために旅行するようになったのは交通機関の進歩のおかげである。

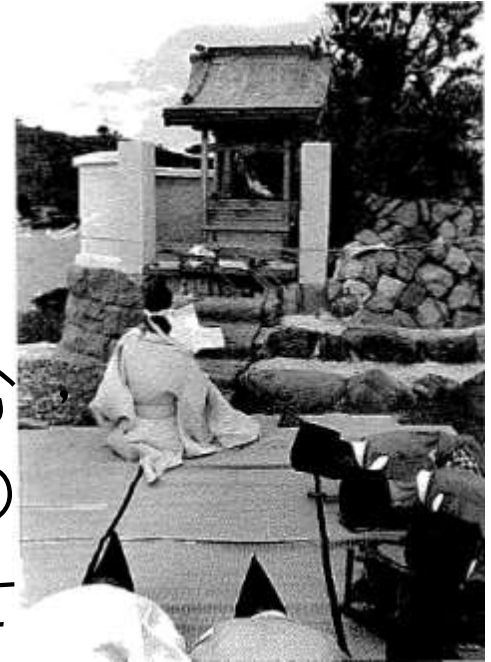
人は何を求めているのか・

- 霊場は，そこに至る参拝道，それらを包む山岳，森林，河川，海辺などの自然がなければまったく価値はない（山岳信仰，補陀落渡海を結んだ遍路）
- 人の生活景の豊かさ
- それをつなぎ，生かし，つむぎ暮らしてきた日本という国



無名の質

- 人，町，建物，荒地，海，山に潜む生命や精神の根源的な規範・無名の質が宿っている・決して言葉に表せないもの



モビリティは都市を変える

第一次 紀元1100-1400年（小都市の勃興）

十字軍遠征：陸上・海上交通の改善
封建社会の崩壊

第二次 紀元1500年（アントワープ，リスボン）

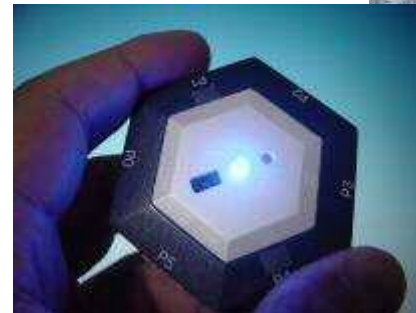
帆船技術の進歩と地域間交易の増大

第三次 紀元1800年(100万都市)

産業革命と鉄道→地域間労働分業
消費社会→大都市の形成

第四次 紀元2000年（上海，北京の台頭）

コミュニケーション・ネットワーク革命
都市が，瞬時に世界経済に影響を与える。
ノード集積型-クラスター型



知識社会

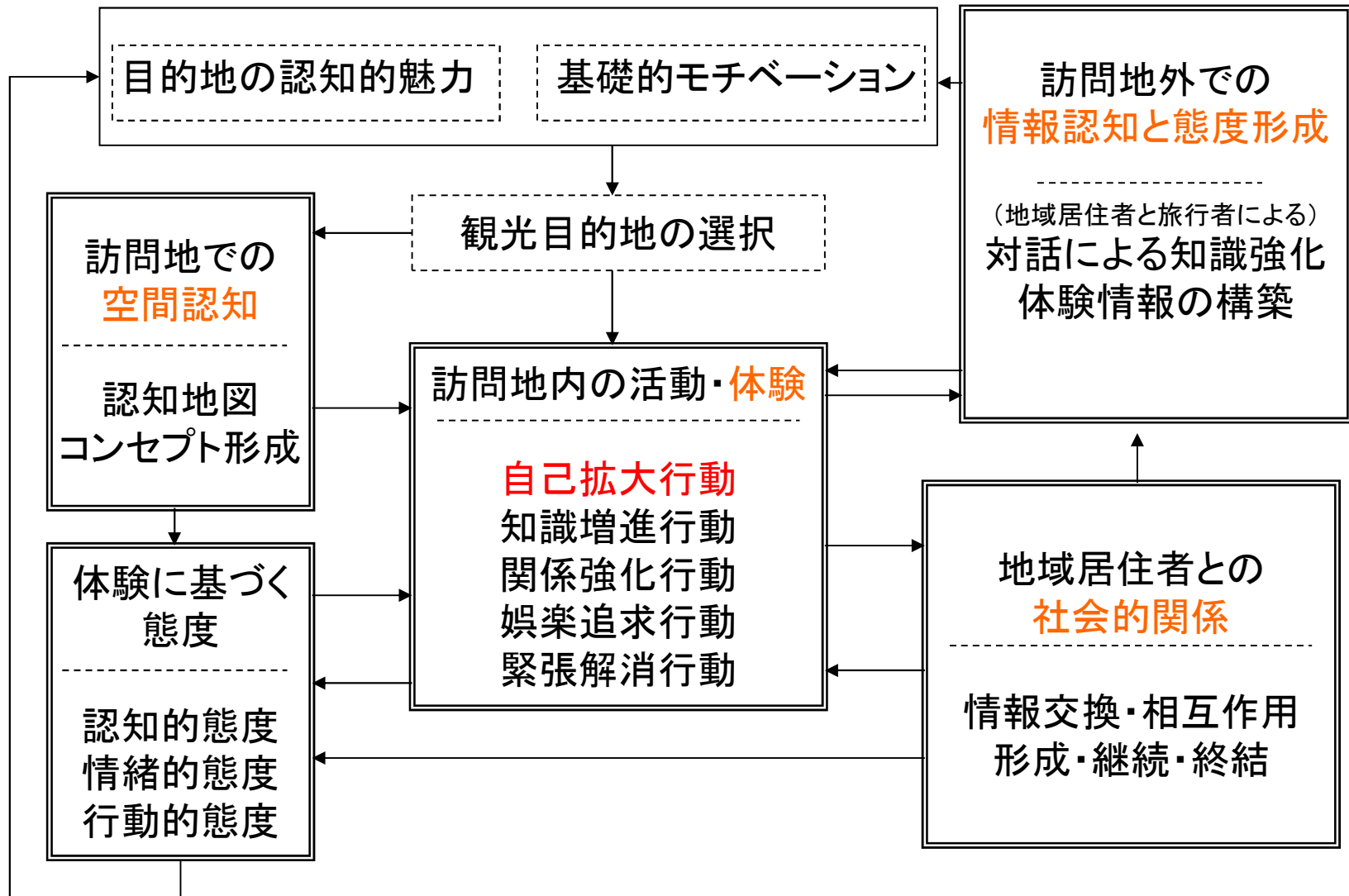
知識社会とは何か？

1. データ
2. 構造・形態
3. パターン
4. 概念
5. 知識
6. コンピタンス

体験



観光時の旅行者行動の原理



宿か，体験か？

The screenshot shows a web browser window displaying the website <http://www.946river.com/>. The browser's address bar and search bar are visible. The website has a green navigation menu on the left with the following items: **Marsh & River**, TOPページ, カヌーツーリング, カヌー宿泊パック, 旬感体験プラン, 冬のアウトドア, 釧路湿原ブログ, インフォメーション, フォトギャラリー, マッシュ&リバーについて, 旅のあとがき, リンク, お申し込み, お問い合わせ, and 075286. The main content area features a green header with the text: ■■ 釧路川カヌーガイド ● 釧路湿原ネイチャーガイド ■■ and 新緑に萌える釧路湿原、釧路川をカヌーでツーリングして♪. Below the header is a photograph of a river winding through a lush green landscape. Underneath the photo is a red and white banner that says: 更新情報 6/9 TOPの写真更新 NEW. The text below the banner reads: Marsh & Riverのツアーは、ゆったりとした時間をすごしていただくため、すべてお客様単位の貸し切り制で実施しています。フィールドに満足していただくのはもちろんのこと、安心してご参加いただける環境を整えることで、お客様との信頼関係を築き、再び足を運んでいただけるようなガイドをしたいと考えています。 At the bottom, there is a green box with the text: 期間限定のオススメツアー NEW こちらのツアーの他にも多彩なプランが盛りたくさん！メニューからどうぞ！ Below this are two promotional items: 釧路川カヌーツーリング (Cannoe Touring) and 6月限定 カヌー&ふくろうの小道 (6-month limited canoe and owl path). The canoeing item includes the text: カヌーツーリング一覽。朝いちからトワイライトまで、5コースご利用しております。 The owl path item includes the text: 野鳥の囀り、新緑萌える森林公園を、初夏の花を探しながら、ふくろうの森の冒険の日帰りツアーです。

自律的なツーリズムへ

- 体験型観光を地域づくりとしてやるのはいいが . . . 負の遺産の歴史を繰り返さないために
 - 単なる旅行業の真似事の失敗
 - 持続可能な仕組みを成立させること
 - 地域資源の丁寧な読み込み
 - 気づき → 表明 → 協働 → 実施 → 評価

緑の遅い交通の推進ポイント

羽藤・濱上・春木※が仮定した10種のプレイヤー

※羽藤英二，濱上洋平，春木信二：
風景づくり活動におけるコミュニケーション・ネットワークの発展とその内的構造の分析，第三回景観デザイン研究発表会，**CDROM, 2007.**

プロンター P

もともと外部者で，地域の地域に刺激を与え，各プレイヤーの活動を促す役割。

同好の士 C

地元の方で，起案者に賛同し，サポート的役割を担う人・団体。コアチームを形成する人。

起案者 I

活動における創始者。新しい考えに基づき，行動を起こす人やグループ。

指揮者 D

プロジェクトの企画・運営を指揮する人。全体調整など。

ファシリテーター FC

コミュニケーション能力の高さ，中立性を背景に，全体の方向性を整流化し，とりまとめをおこなう。

技術支援者 T

指揮官・同志によって構成されるコアチーム外で，技術・知識を提供し，コアチームをサポート

宣伝者 CR

放送・新聞・雑誌・町の広報など。活動を発信

資金提供者 F

起案者やコアスタッフに資金を提供。

ネットワーカー N

内部者に対して外部からキーパーソンとして新たに参加・協力を招き入れる役割を担う人。

ユーザー U

活動の影響を受ける者。

マスツアーをコントロールできるか？

- マスツアー化する体験観光
 - 体験が地域に大きな影響を与える。
 - コントロールできるかどうか重要（ツアーガイドの行き過ぎ）
 - 小笠原諸島では，東京都自然ガイドと一緒にないと南島に上陸できない。



▲小笠原諸島南島と自然ガイドの講習会

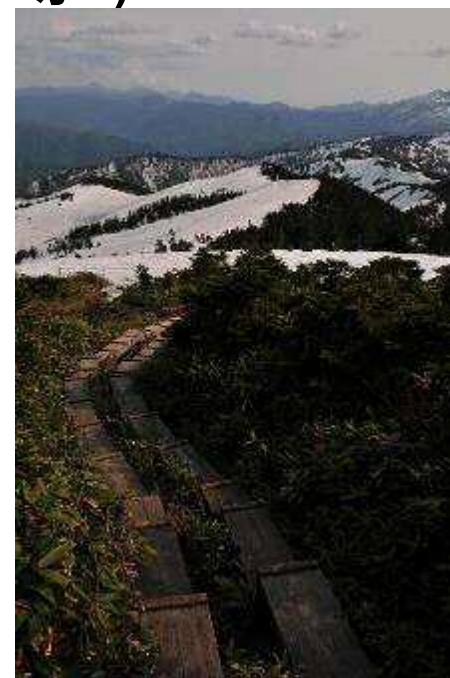
誰がマネジメントすべきか？

- 「その地域での体験」がコンテンツ
 - 自然環境や地域社会の事情を熟知している地域自身がマネジメントの主体とならざるを得ない。
- どうマネジメントすべきか
 - 区分（ゾーニング，制限，補強と誘導）



▲福島・夏井川河口の野鳥の営巣地

▲会津駒ヶ岳山頂付近の木道







ひたすらに野を歩き，山を越え，草木の中に生きた。



ひたすらに野を歩き，山を越え，草木の中に生きた。



早くに両親を亡くしたが、不思議に笑顔の多い人だった。



南方熊楠と並び称される不世出の植物学の巨人、
牧野富太郎。これは彼が歩いた名もなき道の物語。



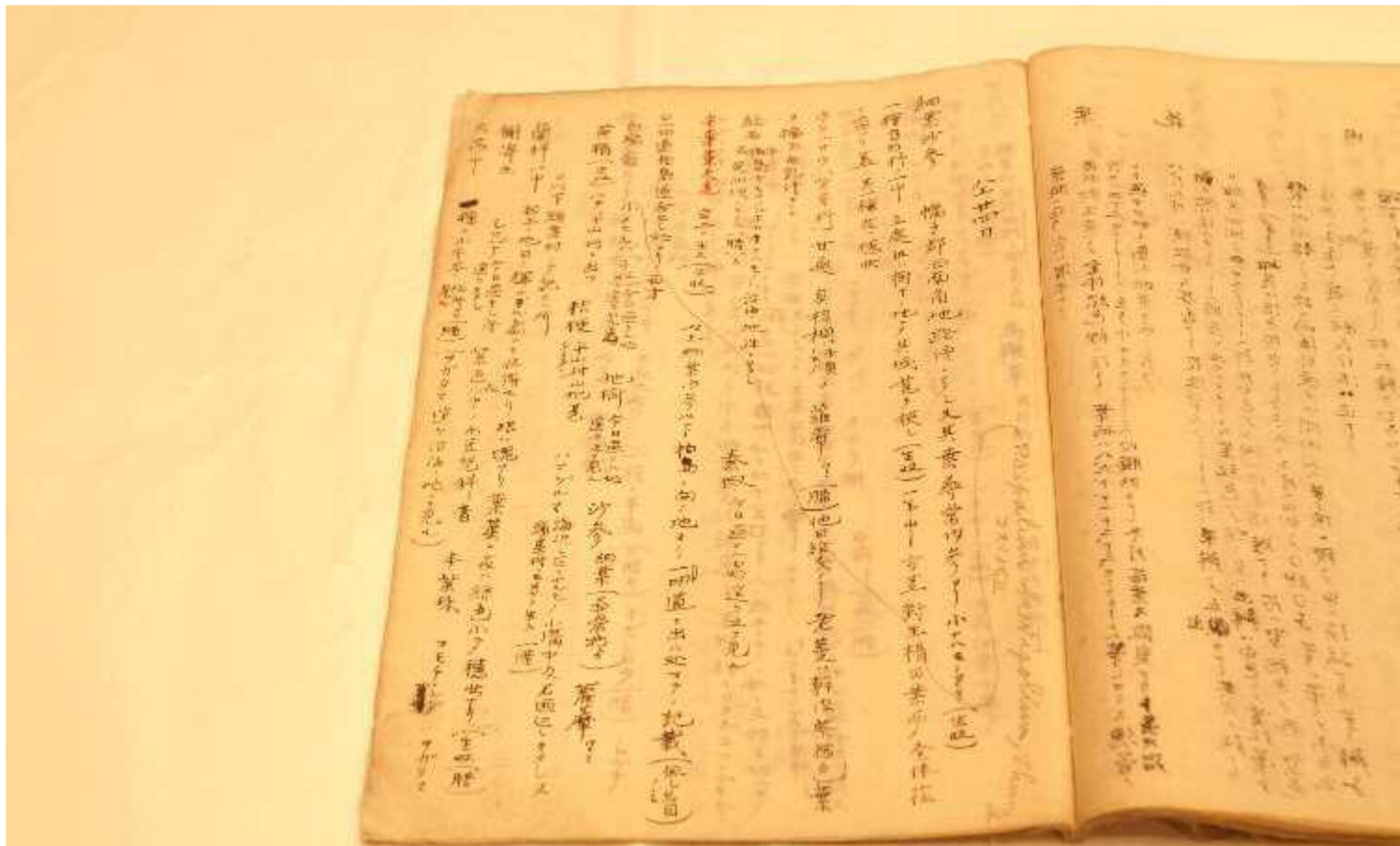
長沢で早い春を告げる歳時記のように、ひっそりと月の光のような白い花を咲かせていた。



切り落とされることなく残った桜の周りの鬱蒼とした木々を伐採して現れた足摺桜の巨木（樹齢200年）。



100年以上前，牧野はこの地を歩いた。



膨大な彼の研究ノートには，訪れた場所，見聞きした草木の名前，その方言，スケッチが残されている。



明治14年から18年にかけて，まだ彼が若かった頃，
好んで幡多郡を歩いた。



名もなき花があれば名をつけた。その数は2500。
自らの新種発見も600種にのぼる。



橋浦
 ハマセンダン ハマスノキ
 ヤマカキ フチバイチゴ
 オオルリソウ オガタマ
 コンロンソウ

周防形
 タチハノコ バラギ
 ラガタマ アコウ

赤泊
 ヒャクセン アコウ
 楡 オオハマスゲ

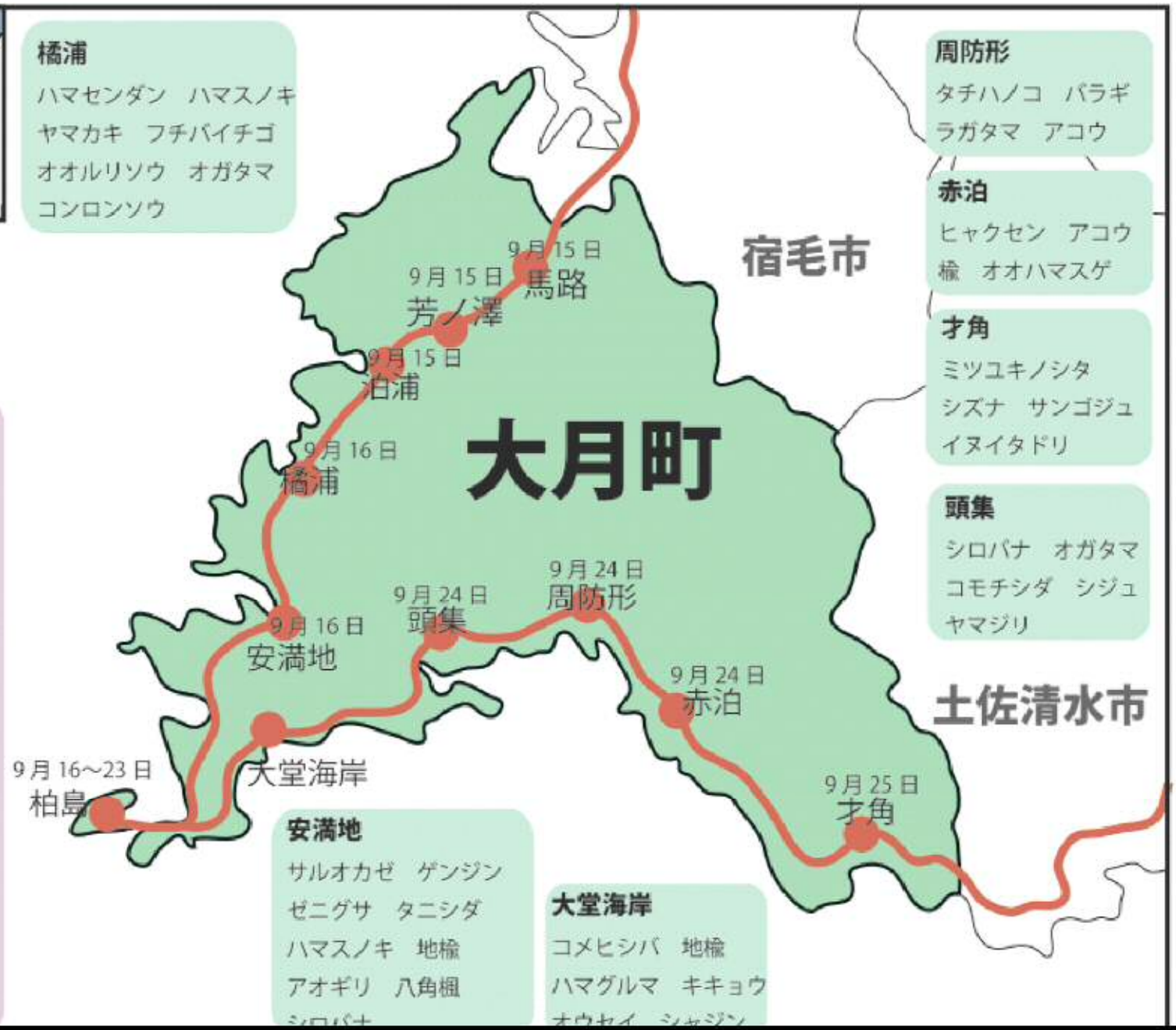
才角
 ミツユキノシタ
 シズナ サンゴジュ
 イヌイタドリ

頭集
 シロバナ オガタマ
 コモチシダ シジュ
 ヤマジリ

泊浦
 オオイタビ コゴメ
 オガタマ ダモ

それから今度柏島へ行きましたら、その当時は採集胸乱とい
 うものがなかったので、プリキで筒を三つばかり作って、共
 の者に担わせて行った。そうして柏島の宿屋に行ったところ
 が宿を貸してくれない。「何者が来たか・・・」と言ってね。し
 かたがないから漁師の家を頼みまして、そこに泊まりました
 ことを覚えている。

牧野富太郎博士（九十二才）肉声録音テープより
 昭和二十八年十二月（一九五三年）大泉牧野邸聞き手大倉幸也



牧野の旅の肉声：その旅程と採集した植物リスト

牧野富太郎の道を歩く。

HOME 牧野富太郎について イベント 植物図鑑 投稿

牧野富太郎について



高知県立牧野植物園所蔵

高知で過ごした少年期

牧野博士は文久2年(1852年)に土佐国高知(現高知市)に生まれ、大の植物好きで、一人裏山で草木と遊ぶ少年であった。彼は9歳から寺子屋で学び、その旺盛な知的好奇心から独学で様々な学問を習得していった。そして植物に熱中し、植物採集や植物の名前・植物図を自ら学んでいった彼は、「日本中の植物を調べるためにも、まずは高知県の植物を調べあげよう」と考え、明治14年(1881年)から何年にも及び、土佐の植物を採集して回った。その採集のよまじめとして、明治14年に幡多郡大月町に植物採集に来たことや、明治18年と22年にも幡多郡に植物採集に訪れていることが彼の日記や文獻などに記されている。そのようにして、土佐の豊かな自然を師として自学で植物学を学び、採集と写生、観察による実地を基本とする植物分類学の基礎を培っていった。



ナンバンキブシ



センブリ



ゼンダン



シヤリノバイ



ツワキ

東京で研究に励んだ青年期



高知県立牧野植物園所蔵

その後、植物の正確な知識を得るために多くの新しい文献と知識が必要となったため、牧野博士は東京に移住することを決意した。上京した彼は東京大学や農科大学で植物研究に熱心、日本中を踏査し数多くの新種を発見していった。そして27歳のとき日本で初めて新種「ヤマトグサ」に学名をつけたのを始めに、1500種以上の植物を命名し、世界的な植物学者として大きな功績を残すこととなった。そして『植物学雑誌』という学会機関誌や、『日本植物志図編』という専門誌などを出版し、植物知識の普及に力をまいていった。

植物知識の普及に努めた壮年期



研究や講義の傍ら、彼は一般の人々が参加できる植物採集会を頻りに行い、植物についての知識を教えていった。それだけにとどまらず、自然の大切さ、植物への愛情

明治14年、華やかなりし文明開化に目も向けず、大月から三原に自生する珍しい草木を求め、山を越え橋を渡り川を越え、幡多郡の西の果てまで人知れず歩き続けた若き人がいた。



牧野富太郎の道



を歩く in 大月町/三原

<p>2008年11月29日(土曜) 大月編</p> <p>1030 大月町役場駐車場 集合・受付(バス移動)</p> <p>1100 牧野の道ウォーク/風景カフェ</p> <p>1300 昼食・風景食堂(旧芳ノ沢小学校) セグウェイ風景散歩</p> <p>1430 基調講演「牧野の植物」牧野植物園・福垣先生 牧野富太郎博士が語る「幡多の思い出」 「食」のワークショップ(風景料理作り) 風景料理 試食会/風景映画館 試写会 ほか</p> <p>参加料 1,500円 先着40名(18日より受付)</p> <p>申し込み 大月町商工会(町田) 0880-73-0135</p>	<p>2008年11月30日(日) 三原編</p> <p>A組(30名)/B組(30名)</p> <p>0950/1100 三原村宮の川 五社神社集合・受付</p> <p>1000/1300 牧野の道ウォーク</p> <p>1300/1130 昼食(農家食堂弁当)</p> <p>A・B組 共通イベント</p> <p>山茶花油絞り体験 アロマ・エステ体験 風景カフェ/道アートほか</p> <p>参加料 1,500円 先着 計60名(18日より受付)</p> <p>申し込み 三原村産業建設課(川村) 0880-46-2111</p>
--	--

主催：大月町-三原村 牧野富太郎の道を歩くナビ推進協議会

人物史と地域誌を中心にした情報ポータルサイトの構築



プラットフォームのコアになる牧野の研究日誌と語り・踏査結果をもとに植物資源リストを作成



校庭に大きな梅檀の木があった。



廃校になった小学校がある。かつて子供たちの元気な声が響いていた。



みんなで掃除をしてみた。



様々な役割の人々が各地から集まる



廃校になった地域の小学校における牧野風景美術館の開催



農家食堂.



地域の食材を生かした料理をつくる人たち

























センブリ.



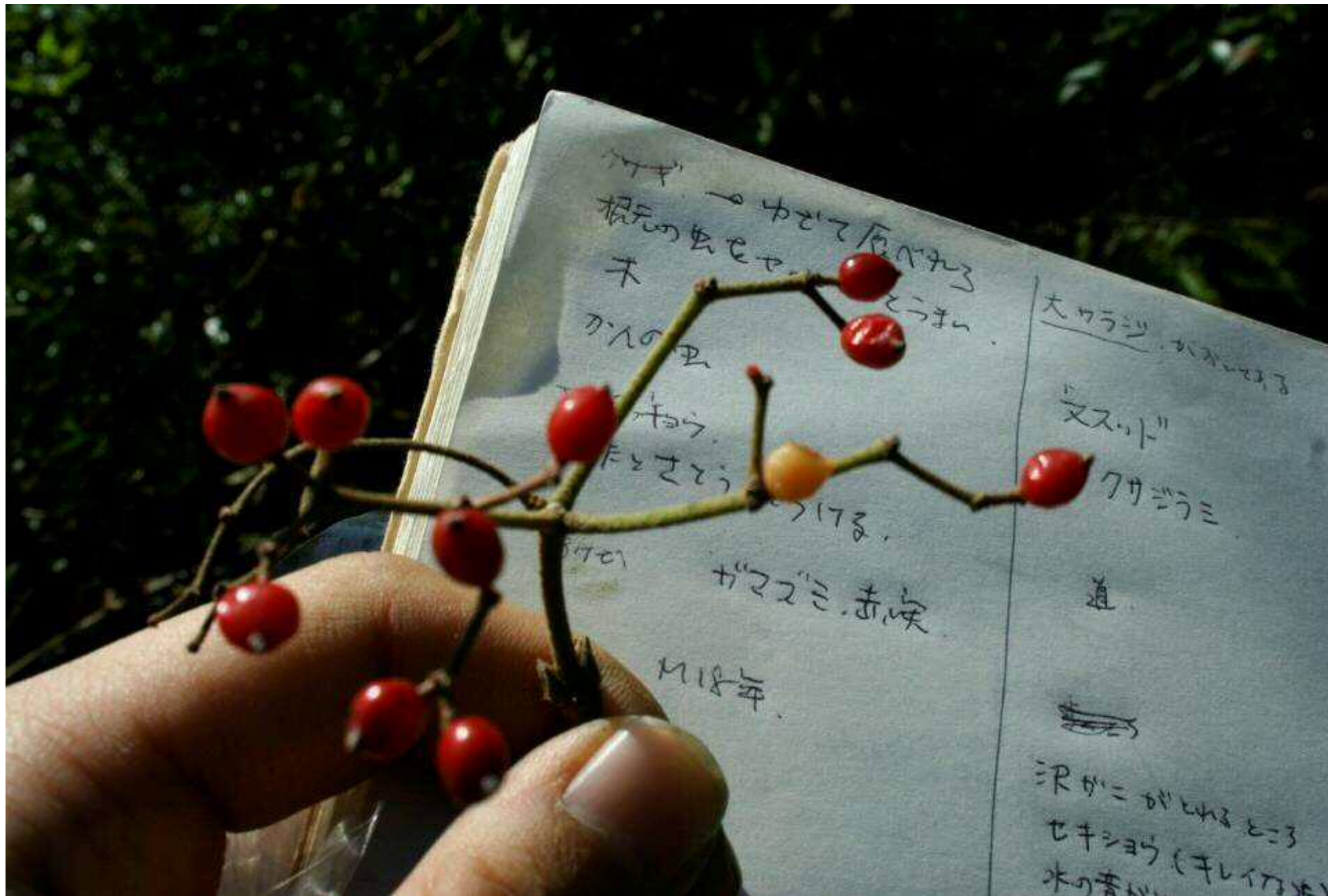
ハマクサギ



ツリガネニンジン



ツワブキ



「ヤギ」 → 中絶して原形を失った
根元の虫をセマ

木
カ入の虫

「ヤギ」
カとセマ
カ入の虫

ガマズミ. 赤い実

11月18日

大ヤラジ. カ入の虫

「ヌスビト」

クサヅラミ

道

~~カサヅラミ~~

沢ガニ. カ入の虫
セキシヨウ (カサヅラミ)
木の葉の



ヤッコソウ



ハマラツキョウ



あてもなく続く長い観察旅行の中で、牧野はいったい何を見ただろうか。



「昔は、山茶花の実で髪を洗うといい匂いがしたもんだ」



「実を棕櫚の袋に入れて湯搔いて、圧搾すれば良質の油がとれたもんさ」



「食糧危機なんて関係ない。森にはなんでもある」



「食糧危機なんて関係ない。森にはなんでもある」



大堂海岸から旅立つ蝶がいる。豊後水道を越え、はるか遠く沖縄石垣あたりまで渡り続ける蝶がいる。



牧野も見ただろうか。アサギマダラはつかの間ヒヨドリバナの蜜を吸い、ただ道をひらひらと舞う。



弘見村・芳澤へ
(芳沢)

← 泊村はこっち
(泊浦) 坂は下るだけ

風景















大規模リゾートを超えて

- 過疎化の進行と公共事業による地域活性化
- 公共事業による弊害の顕在化
- 大規模リゾートとその破綻
- 地域衰退危機を乗り越える体験型遅い緑の交通 = ツーリズム



▲東急リゾートの開発



▲地域主導の竹富島



▲芸能人が好きな川平湾



ツーリズムデザイン 人を誘う (いざなう)



ツーリズムデザイン 人はなぜ移動するのか？